



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト クリーン農業ニュースレター

第1号 2019年8月発行

「クリーン農業ニュースレター」の発刊にあたって

クリーン農業開発プロジェクト
チーフアドバイザー 牧野 竹男

この度、「クリーン農業開発プロジェクトークリーン農業ニュースレター」第1号を発行する運びとなり、大変光栄に思います。同プロジェクトは、JICA(国際協力機構)の支援により、実施されている技術協力プロジェクトです。今後、このニュースを発行することで、プロジェクト活動の最新の情報をお届けしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

このプロジェクトは2017年11月に開始し、以来、ラオス農林省農業局、同局クリーン農業基準センター、及び関係県の県農林事務所及び郡農林事務所をカウンターパート機関として、同国のクリーン農業の推進を支援して参りました。

このプロジェクトが対象とするクリーン農業は、有機農業とGAP(農業生産工程管理)で、これらは、いずれも規格、認証制度及びガイドラインを有し、その生産活動は、これらの基準や認証制度に即したものとして行われる必要があります。現時点では、プロジェクトの対象は主として野菜・果物の有機農業に焦点を当てて、市場ニーズに基づくクリーン農産物の推進という視点で活動を行っています。

プロジェクトの対象県はビエンチャン市、ルアンパバン県、サイヤブリー県及びシェンクワン県の4つのパイロット県です。

ラオスのクリーン農業をさらに発展させる観点で、克服しなければならない課題がいくつかあります。特に、食品安全や違法農薬利用などに対する消費者の関心や懸念に対応した信頼できるクリーン農産物を販売する場所や機会が限られていることは大きな課題です。

プロジェクトでは、こうした課題に対応するため、農家や農家グループがクリーン農産物に対する市場ニーズに応え、その販売機会を拡大することを支援しています。もし、私共のプロジェクトにご関心のある利害関係者の皆様がいらっしゃれば、いつでもお問い合わせください。

私共としては、農家、加工事業者、流通事業者、卸売事業者、小売事業者、ホテル・レストラン、消費者、公共機関業者のみならず他の開発パートナーの皆様も含め、クリーン農業にご関心のある方々からのお問い合わせを歓迎いたし

ております。私共としては、このニュースレターの読者の皆様とともにラオスでのクリーン農業の推進に向けた活動を進めていきたいと考えておりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

最近のトピックス

1 ITECCマーケットで「ビジネスマッチングイベント」開催(ビエンチャン市)

6月15日土曜日、ITECCの有機マーケットで「ビジネスマッチングイベント」を開催しました。普段から多くの消費者が家庭用の野菜や果物を求めてやってくる有機マーケットですが、今回のイベントのねらいは、有機農業の生産者が、レストランやスーパーマーケットなど新たな顧客を開拓し販路を広げるきっかけをつくることにあります。

マーケットの一角に設置したテントで、ビエンチャン市有機農業生産者グループの委員会メンバーやビエンチャン市農林事務所の職員が中心となり、訪れたレストランやショップのオーナー或いは購買担当者に対して、有機野菜・果物について説明を行い、ビジネスの可能性について話し合いました。



商談の様子

イベントでは同時に、マーケットに来た一般の買い物客を対象として、有機農業についての質問に答えるクイズ大会も開催し、大変な賑わいを見せました。



プロジェクトでは、こうしたイベントの開催を通じて、消費者や小売・流通業者に有機農業やラオスの有機農業規格の知識の普及を図り、消費を拡大していきたいと思っています。

なお、商談はITECCの有機マーケットが開催されている時間帯(注)、いつでも有機農家グループの代表者が対応します。有機野菜や果物に関心のある皆さまの訪問をお待ちしています。

(注)ITECCの有機マーケットは、毎週水曜日と金曜日の6時～12時に開設されています。

2 JICAプロジェクト合同研修―「アグリ・マーケティング研修」開催

7月5日金曜日、ビエンチャン・プラザ・ホテルにおいて、2つのJICA農業プロジェクト、「クリーン農業開発プロジェクト」と「サバナケット県における参加型農業振興プロジェクト」の共催で、アグリ・マーケティング研修を開催しました。どちらのプロジェクトにおいても、農家が販路を広げて生計を向上すること、行政機関がそれを支援するアグリビジネスのスキルを身に付けることを目指しています。研修には、対象5県(ビエンチャン市、ルアンパバン、サイヤブリ、シェンクワン及びサバナケット各県)の農家、県農林事務所及び郡農林事務所職員等の合計50名が参加しました。

午前中は、米山JICAラオス事務所長とソムワン農林省農業局次長からの冒頭あいさつの後、荒石専門家(サバナケットプロジェクト)及び木下専門家(クリーン農業開発プロジェクト)が、それぞれ、「顧客志向のアグリ・マーケティング」及び「成功の要因―価値をいかに創造するか」というテーマで講義を行いました。その後、ゲストスピーカーとして、ラオスで数少ない農産物の流通会社であるKP社のシタラット副社長が講演を行いました。

午後は、「Marketerになろう！」及び「顧客ニーズに基づいて最も高利益な生産計画を作れるのは誰か」というテーマで2つの演習を行いました。各県ごとにグループを作ってコンペ方式で行なったことにより、皆苦勞しながらも、終了時間が過ぎるのも厭わず真剣に課題に取り組みました。各演習の最後には各グループが成果物を発表し、最も良いプランを作った2つのグループが表彰されました。



演習でのグループワークの様子

また、研修の前後の日程で、ビエンチャン市の主要なスーパーマーケットを訪問し、生鮮野菜や果物の取り扱い状況を見て回るスタディツアーも実施しました。

参加者からは新しい経験が刺激になったという声も聞かれ、今回の研修が、生産者志向的な意思決定を改め、需要サイドに配慮した市場指向の農業や生産計画を実践することの重要性について、参加者が認識を新たにすきっかけ作りのために役立ったのではないかと思います。



参加者全員に修了証が手渡されました。



アグリ・マーケティング研修